

# **新聞広告デジタル制作ガイド N-PDF ver.1.2 (2019)**

**【 Mac OS X / Illustrator CS2～ / InDesign CS4～ / Acrobat 9～ 対応版 】**

一般社団法人 **日本広告業協会**

**JAAA**

本ガイドは、Mac OS X環境での新聞広告用PDF制作・送稿に対応したものです。EPSで制作・送稿する場合は、従来のガイドブック(新聞広告デジタル制作・送稿ガイド ver.1.5またはver.2.0)をご使用ください。  
本ガイドで使用しているキャプチャーおよび文言は、Adobe CS5.5/パッケージ製品から引用しています。  
その他のバージョンにおいて表記が異なる場合がありますが、アプリケーションのヘルプ等を参照し、ガイドに記載の設定・手順と同じになるように制作進行をお願いします。

## CONTENTS

制作環境 2

制作準備 3-4

基本的な注意事項 5

制作ルール 全般 6-9

制作ルール モノクロ原稿 10-12

PDFの作成 13

PDFのプリフライト 14-15

# 制作環境

## ■ フォーマット

Mac版 Illustrator及びInDesignから書き出したPDF形式。PDFの書き出しへは規定の[PDF設定]を利用する。  
Acrobat Distillerやその他のアプリケーションからPDFを作成しない。

## ■ 使用システム

Mac OS X (Mac OS9・Windowsは使用不可)  
アプリケーションのバージョンに合わせ、それぞれ推奨されるOSを使用する。

## ■ アプリケーション

下記のMac版ソフトを使用する。各アプリケーションは最新のバージョンにアップデートする。  
Adobe Photoshop CS2以上  
Adobe Illustrator CS2以上  
Adobe InDesign CS4以上 (モノクロ原稿は使用不可)  
Adobe Acrobat Pro 9以上 (Acrobat 8以下は使用不可)

## ■ ウイルスチェック

原稿ファイルに対してウイルスチェックを必ず行ない、ウイルスに感染していないことを確認する。

## ■ データ圧縮

原稿データを圧縮ソフトで圧縮しない。

## ■ ファイル名

レイアウトデータ、配置データのファイル名は、半角カタカナと半角記号を使用しない。  
アンダーバー[\_]及び拡張子のドット[.]は使用可。  
文字数は、拡張子を含め31文字以内とする。

## ■ データ量

原稿データのデータ量は400MB以下にする。

## ■ プリフライト

作成した[N-PDF2012準拠PDF]は、Acrobat Proで規定の[プリフライトプロファイル]を用いて  
プリフライトを実施し、不備のない事を確認する。

# 制作準備 設定ファイルのダウンロード・読み込み

## 設定ファイルのダウンロード

日本広告業協会WEBサイト ([https://www.jaaa.ne.jp/2012/06/n\\_pdf/](https://www.jaaa.ne.jp/2012/06/n_pdf/)) から規定のファイルをダウンロードする。

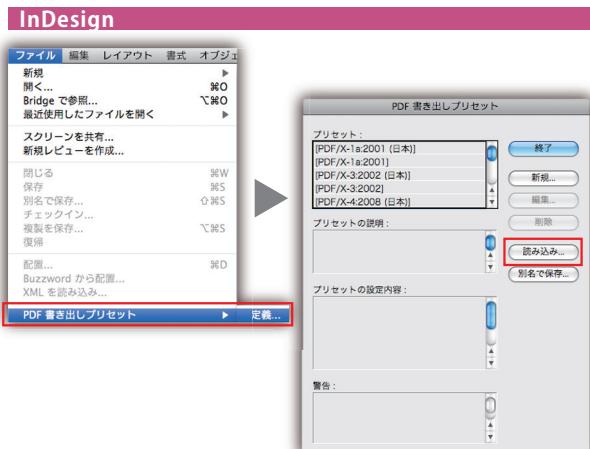
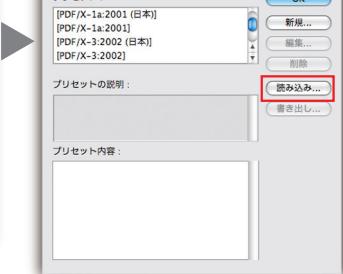


## AdobePDFプリセットの読み込み



ダウンロードした規定の[PDF 設定]をレイアウトアプリケーションに読み込む。

※Illustrator・InDesignのどちらかで設定を行えば同一のプリセットを共通で使用できます。



- 1.[ファイル]メニューから[PDF書き出しプリセット]の[定義]を選択する。
- 2.[読み込み]ボタンをクリックし、ダウンロードした規定の[PDF設定]を読み込む。

## プリフライトプロファイルの取り込み

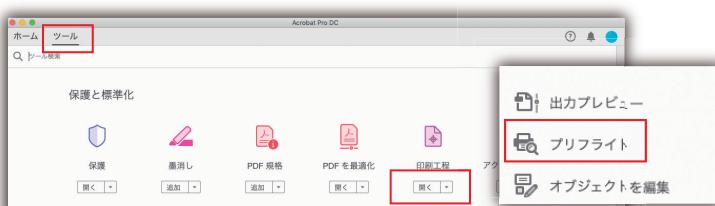


ダウンロードした規定の[カラー・単色専用、モノクロ専用プリフライトプロファイル]を、それぞれAcrobatに取り込む。

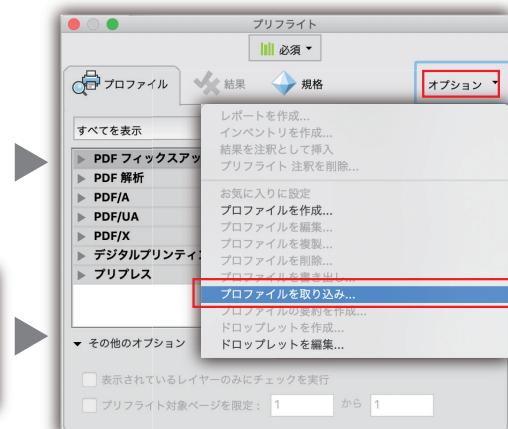
※Acrobat8以下は使用不可。

### Acrobat

- 1.[編集]メニューから[プリフライト]を選択する。  
(Acrobat 9は、「アドバンスト」メニューから)
- 2.[オプション]メニューから[プリフライトプロファイルを取り込み]を選択し、規定のプリフライトプロファイルを取り込む。



Acrobat DCでは[ツール]パネルの[印刷工程]を開き[プリフライト]を選択でも可。



# 制作準備 環境設定の確認・アプリケーションのカラー設定

## 環境設定

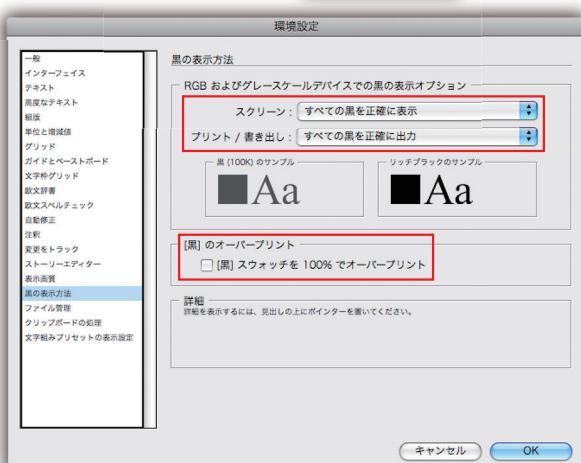
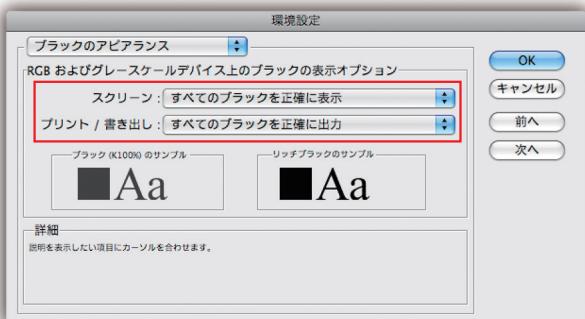


環境設定を確認する。

### Illustrator



### InDesign



- [Illustrator] メニューから [環境設定] の [ブラックのアピアランス] を選択する。
- スクリーン: [すべてのブラックを正確に表示] を選択する。

プリント／書き出し: [すべてのブラックを正確に出力] を選択する。

- [環境設定] の [黒の表示方法] を選択する。
- スクリーン: [すべての黒を正確に表示] を選択する。

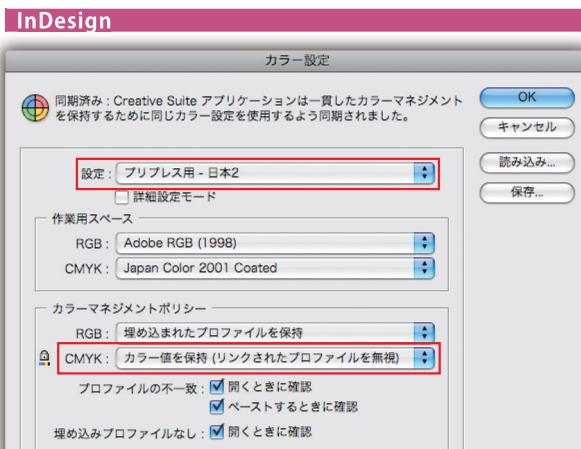
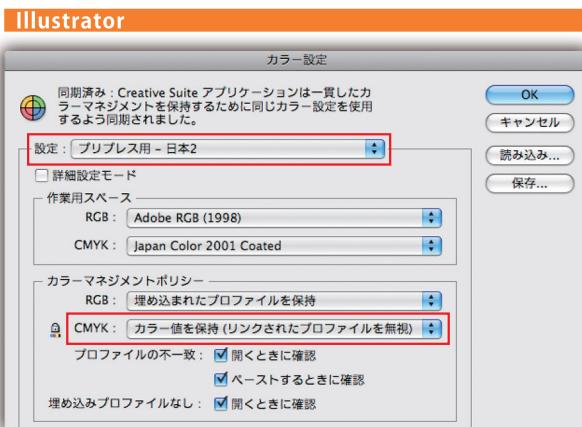
プリント／書き出し: [すべての黒を正確に出力] を選択する。

※ [黒] スウォッチを 100% でオーバープリントの選択を行なうと、[黒] スウォッチで作成したオブジェクトは自動でオーバープリントが適用される。

## カラー設定



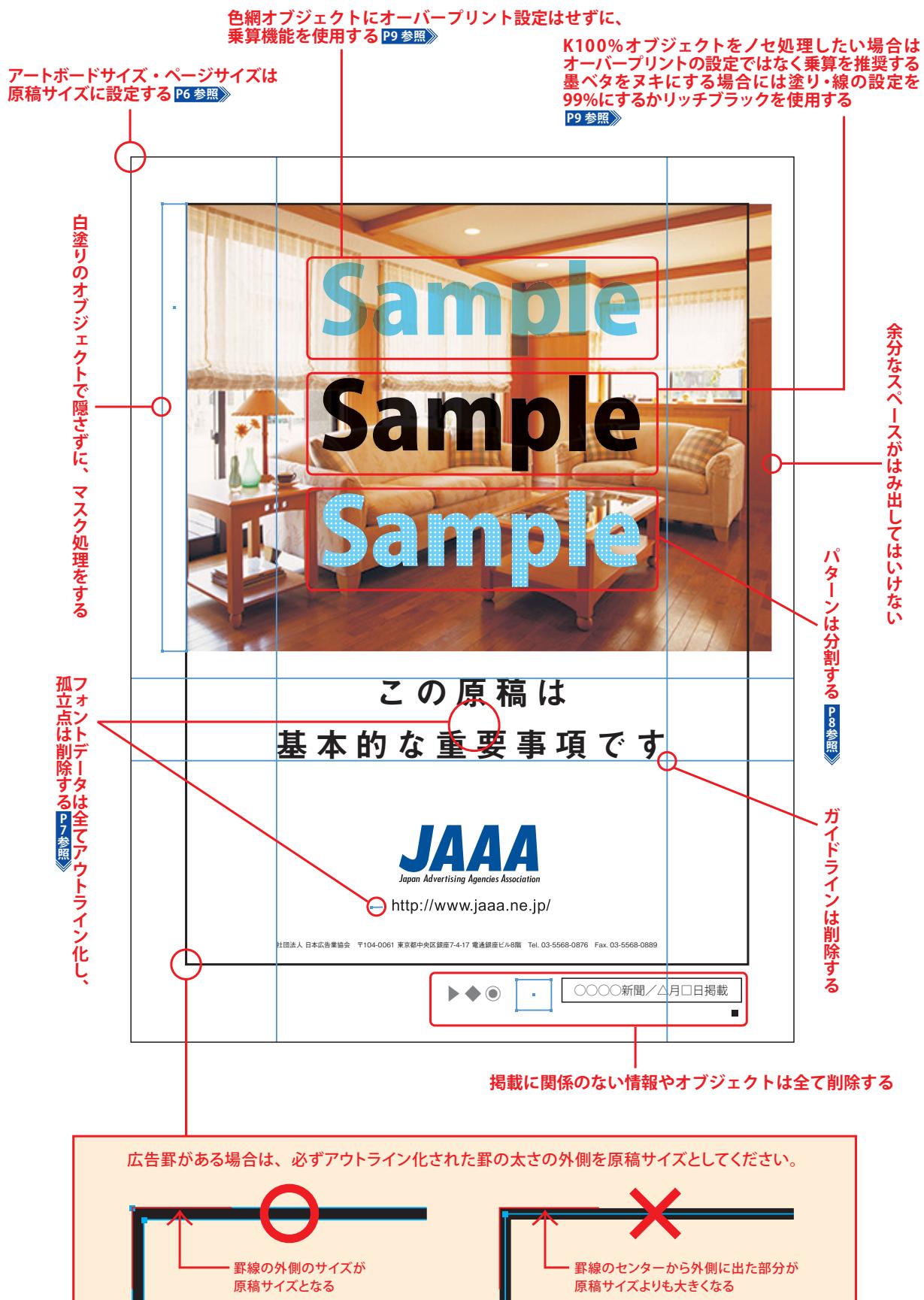
[カラー設定] を確認する。



- 【設定】のタブで [Adobe® Illustrator® 5.5をエミュレート] は使用しない。
- 【カラーマネジメントポリシー】のCMYKは [カラー値を保持 (リンクされたプロファイルを無視)] を選択する。

- 【設定】のタブで [Adobe® InDesign® 2.0 CMSエミュレートオフ] は使用しない。
- 【カラーマネジメントポリシー】のCMYKは [カラー値を保持 (リンクされたプロファイルを無視)] を選択する。

# 基本的な注意事項



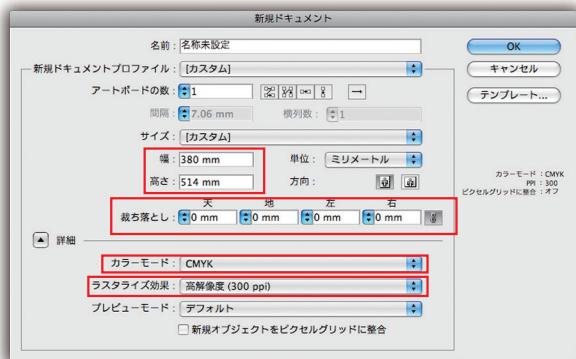
# 制作ルール 全般

## 原稿サイズ設定

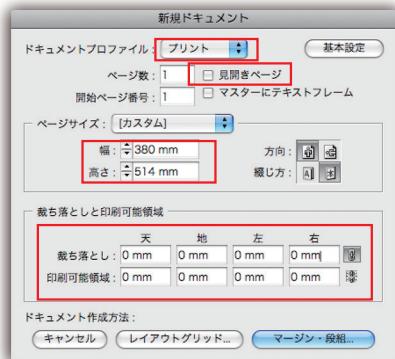


新聞社規定の原稿サイズをアートボードサイズ・ページサイズとして設定する。

Illustrator



InDesign



1. 原稿サイズを「アートボードサイズ」として設定する。  
2. 「裁ち落とし」を天地左右0mmに設定する。  
(IllustratorCS2, CS3には設定項目なし。)
3. [カラーモード]を[CMYK]に設定する。
4. [ラスタライズ効果]を[高解像度(300ppi)]に設定する。  
(IllustratorCS2は効果メニューから設定する。)

1. [ドキュメントプロファイル]を[プリント]に設定する。  
(InDesignCS4には設定項目なし。)
2. [見開きページ]にはチェックを入れない。
3. 原稿サイズを「ページサイズ」として設定する。
4. 「裁ち落とし」と「印刷可能領域」は天地左右0mmに設定する。

## 参考



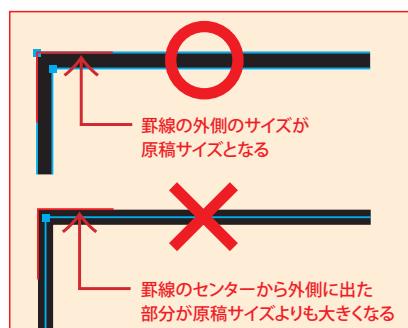
## 広告罫について



広告罫がある場合は、必ずアウトライン化された罫の太さの外側を原稿サイズとする。



広告罫がない場合は新聞社により処理が異なり、受け入れができない新聞社もありますので注意・確認が必要です。



# 制作ルール 全般

## 書類の透明設定の確認



品質の劣化を招く可能性があるため、適切な透明設定を行う。

### ■カラー・単色原稿

#### Illustrator



[効果]メニューの[ドキュメントのラスタライズ効果設定]を開き、[カラーモード]は[CMYK]を選択し、[解像度]を[高解像度 300ppi]に設定する。

#### InDesign



[編集]メニューの[透明ブレンド領域の設定]を開き、[ドキュメントのCMYK領域を使用]に設定する。

### ■モノクロ原稿

#### Illustrator



[効果]メニューの[ドキュメントのラスタライズ効果設定]を開き、[カラーモード]は[グレースケール]を選択し、[解像度]を[高解像度 300ppi]に設定する。

## レイヤー・オブジェクト設定

テンプレートレイヤー、非表示レイヤー、非印刷レイヤー、ロックレイヤー、非表示オブジェクト、ロックオブジェクトの設定はしない。

## 使用色



原稿データ内に不要な版の色指定はしない。

### ■カラー・単色原稿

CMYK、グレースケール、モノクロ2階調のみ使用。RGB、スポットカラー（カスタムカラー）は使用不可。  
スミ版+特色の場合には新聞社の指定がない限り原則として、シアン版を色版として設定する。

### ■モノクロ原稿

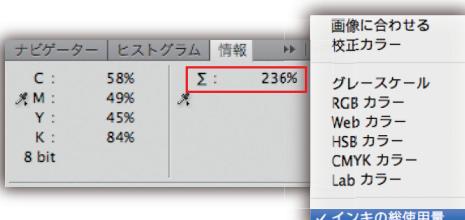
グレースケール、モノクロ2階調のみ使用。CMYK、RGB、  
スポットカラー（カスタムカラー）は使用不可。

## 総インキ量(TAC値)



全てのオブジェクト・画像の総インキ量(TAC値)を240%以下にする。

#### Photoshop



#### Illustrator



#### InDesign

合計値を  
240%以下に設定



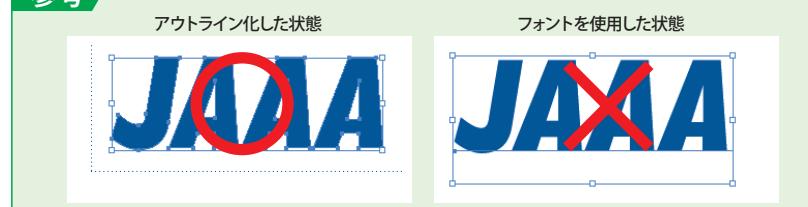
- ◎総インキ量をTAC (Total Area Coverage) 値と言いますが、この値が高すぎると、インキの盛り過ぎが原因となり、ブロッキング（インキが乾く前に過重な圧力が加わるなどして、重なった用紙が接着してしまう現象）等が起こる可能性があります。
- ◎総インキ量 (TAC値) の調整は、濃度をただ下げれば良いだけではありません。色味の変化を最小限に抑えて、高濃度部分のみ調整するには、製版知識が必要となります。製版会社等に依頼するか、新たに入力し直す事をお薦めします。
- ◎スミ濃度の上限値は、新聞社ごとに異なります。新聞社の規定に従い原稿を制作してください。最終的な総インキ量 (TAC値) は、P15を参考に確認してください。

## フォント



フォントはエンベッドせず、全てのフォントをアウトライン化する。フォントデータを含む孤立点は、全て削除する。

### 参考



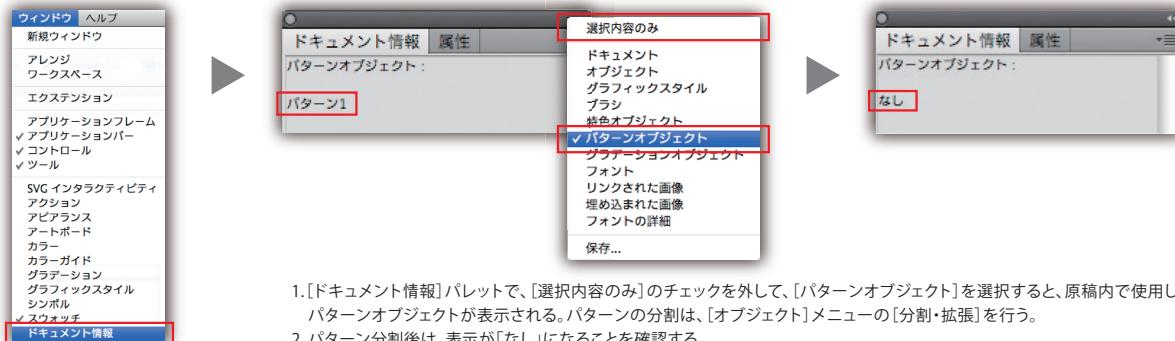
# 制作ルール 全般

## パターンの分割



Illustrator書類上でパターンを使用している場合は、分割・拡張を行う。

パターンオブジェクトの有無は[ドキュメント情報]パネルで確認する。



1. [ドキュメント情報]パレットで、[選択内容のみ]のチェックを外して、[パターンオブジェクト]を選択すると、原稿内で使用しているパターンオブジェクトが表示される。パターンの分割は、[オブジェクト]メニューの[分割・拡張]を行う。
2. パターン分割後は、表示が「なし」になることを確認する。

## 配置素材



画像・素材の配置はファイルメニューから[配置]を選択して行い、他のアプリケーション上でコピーしたオブジェクトをペーストしない。

### ■Illustratorに配置出来るファイル

Photoshopで作成したPSD、EPS、TIFF形式



◎配置した画像データは全て埋め込みを行なってください。  
リンク配置のままPDFを作成すると意図しない仕上がり  
結果となる場合があります。

### ■InDesignに配置出来るファイル

Photoshopで作成したPSD、EPS、TIFF形式

Illustratorで作成したIllustrator形式(下位保存されたデータは使用不可。)  
※配置した画像データ・素材データはリンク配置、埋め込み配置どちらでも可。

### Photoshop

- CMYK、グレースケール画像は[8bit/チャンネル]を使用する。
- 多値画像は最終出力解像度が300dpi前後、二値画像は1200dpi前後にする。
- 拡大縮小率は多値、二値画像共に80~120%とする。
- ICCプロファイルの埋め込みはしない。
- レイヤーは統合する。
- ハーフトーンスクリーン(スクリーンパラメータ)の設定はしない。
- 画像データのフォーマットは、PSD(Photoshopネイティブ形式)形式を推奨するが、EPS、TIFF形式も使用可。
- EPS、TIFF形式は以下のルールに従い、適切に使用する。その他のファイル形式の使用は不可。

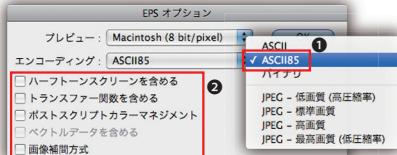


◎二値画像を使用した場合、レイアウトデータの設定や構成によりPDF作成時に解像度やカラーモードが変化してしまう現象が報告されています。  
PDF上で確認をしていただくとともに、不具合が出た場合はトレースまたは別の保存形式(例:EPSをTIFFに)にて対応をお願いします。

#### EPS形式

保存時の[EPSオプション]で、

- [エンコーディング]は、[ASCII85]を選択する。**①**
  - [ハーフトーンスクリーンを含める]のチェックを外す。
  - [トランシスター関数を含める]のチェックを外す。
  - [ポストスクriptカラーマネジメント]のチェックを外す。
  - [画像補間方式]のチェックを外す。
- ②**



#### TIFF形式

保存時の[TIFFオプション]で、

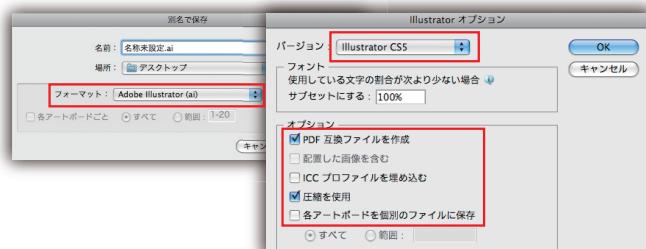
- [画像圧縮]は「なし」または[LZW]、[ZIP]を選択する。**③**

※JPEG圧縮は不可。



### Illustrator

右の形式のIllustratorファイルのみInDesignに配置可。  
Illustratorのレイアウトファイル上にIllustratorファイルを配置する(ネスティング)処理は不可。  
バージョンダウンは不可。



# 制作ルール 全般

## オーバープリント

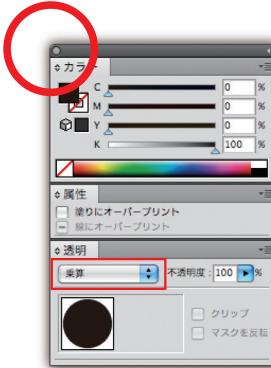
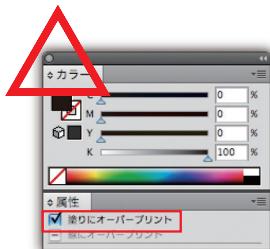


K100%オブジェクトをノセ処理したい場合はオーバープリントの設定ではなく、乗算を推奨する。

墨ベタをヌキにする場合には塗り・線の設定を99%にするかリッチブラックを使用する。

色網のオブジェクトにオーバープリント設定は不可。色網オブジェクトにオーバープリント設定を行ないたい場合は、乗算機能を使用する。

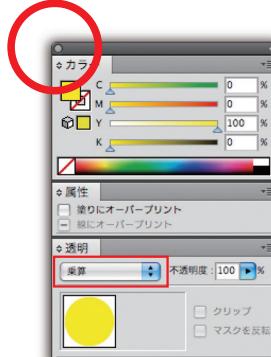
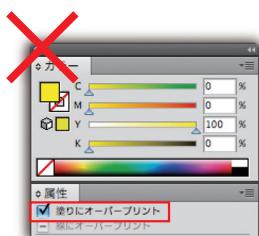
### ■K100%オブジェクト



書類上にオーバープリント設定を使用する場合は新聞社によって  
処理方法が異なり、掲載結果が異なる場合がありますので、事前に確認が必要です。

K100%オブジェクトの  
オーバープリントの  
代わりに乗算を使用

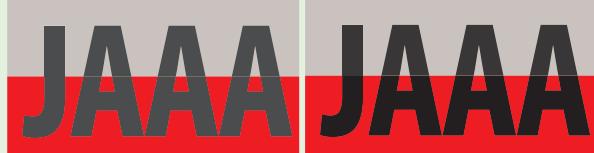
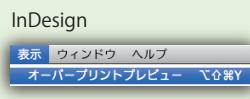
### ■色網オブジェクト



色網オブジェクトの  
オーバープリントの  
代わりに乗算を使用

### 参考

オーバープリントの確認はアプリケーションの  
オーバープリントプレビュー機能を活用してください。



### ■不要なオブジェクトなどの削除

- ◎制作物の外側に不要なオブジェクト・文字・孤立点(不要なアンカーポイント)があると、新聞社のRIPではすべてのデータが含まれる範囲を出力するので必ずチェックして取り除いてください。
- ◎制作物の中に孤立点がある場合も、ゴミとなって表れることがあるので削除してください。
- ◎ガイドラインも認識されることがあるので、削除してください。
- ◎不要なレイヤーや、広告原稿に含まれない注釈などは入れないでください。

### ■複雑なパス

- ◎複雑なパスや、アンカーポイントが非常に多いデータは、出力エラーを起こすことがあるので、画像ファイルとして配置するか、不要なアンカーポイントを削除するなど事前に回避してください。

### ■その他

- ◎グループ化はマスクや複合パスなど必要最低限に留め、オブジェクトはなるべくグループ化を解除しロックもはずしてください。
- ◎混乱した作業状況をそのままファイルに持ち込まない。同じ色で重なり合うオブジェクトは合体させたり、レイアウト要素ごとに必要最低限にレイヤーを分けるか統合するなど、整理整頓されたファイルを作成してください。
- ◎6pt未満のヌキ文字、0.3pt未満の罫、5%未満の平網等を使用すると、本機印刷時にツブレ・カスレ・再現されないなど不都合が発生する場合があるので、運用の際には注意してください。
- ◎本ガイドで扱っていない機能、形式等の運用は注意してください。

# 制作ルール モノクロ原稿の確認・グレースケール化

モノクロPDF作成にあたり、モノクロ原稿独自の注意点や確認事項、処理等が必要です。

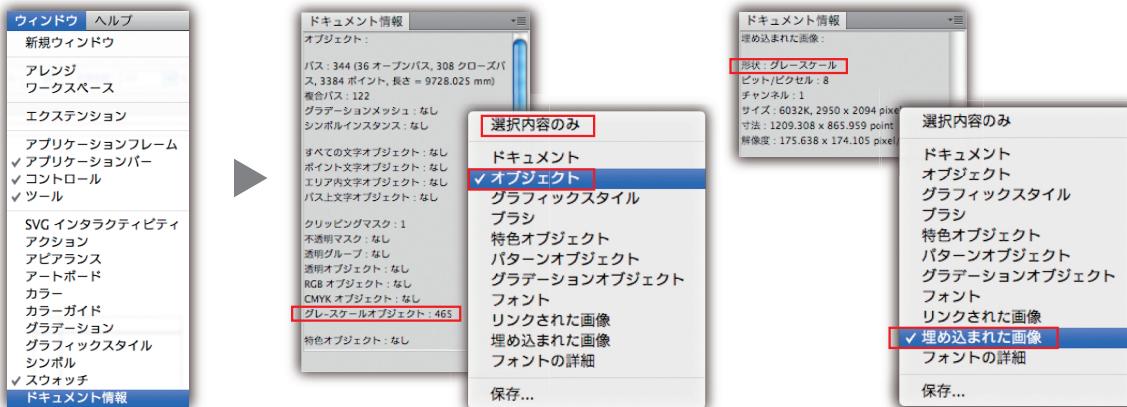
以降の手順を参考に原稿内のグレースケールオブジェクト確認およびグレースケールへの変換を行ってください。

## 注意点

Ai

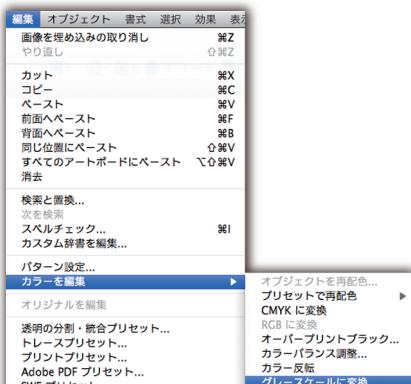
- 使用ソフトはIllustrator、Photoshopのみ使用可。InDesignの使用は不可。
- 原稿オブジェクトはグレースケールのみ使用する。CMY0%+K0~100%、CMYK、RGB、スポットカラーは使用不可。
- [効果]メニューの[ドキュメントのラスタライズ効果設定]の[カラーモード]を[グレースケール]に設定する。
- [ドキュメント情報]パレットにて、全てのオブジェクト・埋め込み画像がグレースケール・モノクロ2階調のみになっていることを確認する。
- 配置画像に塗りの設定は行わない。
- 透明オブジェクトを使用している場合は、[アピアランスの分割]をした後[透明部分の分割・統合]でプリセット[高解像度]を選択して分割・統合を行い、分割された画像を選択してグレースケールに変換する。

## 原稿内オブジェクトの確認方法



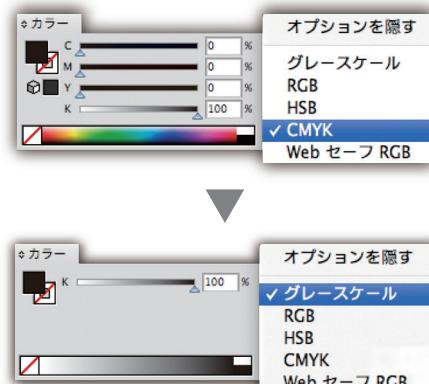
- [「ウィンドウ」メニューから[ドキュメント情報]を選択して[ドキュメント情報]パレットを表示する。
- [選択内容のみ]のチェックを外す。
- [オブジェクト]を選択。全てのオブジェクトがグレースケールのみになっていることを確認する。
- [埋め込まれた画像]を選択。全ての画像がグレースケール・モノクロ2階調のみになっていることを確認する。

## グレースケールへの変換方法 1



オブジェクトを選択し、[編集]メニューの[カラー]を編集]から[グレースケール]を選択する。

## グレースケールへの変換方法 2



オブジェクトを選択し、[カラー]パレットから[グレースケール]を選択する。



Illustrator CS2は[フィルタ]メニュー→[カラー]→[グレースケールに変換]を選択します。

Illustrator CS2使用時はグラデーション等、一部のメニューでグレースケール変換が出来ません。

グラデーションはスライダを一つずつ選択して上記の変換方法2を行ってください。

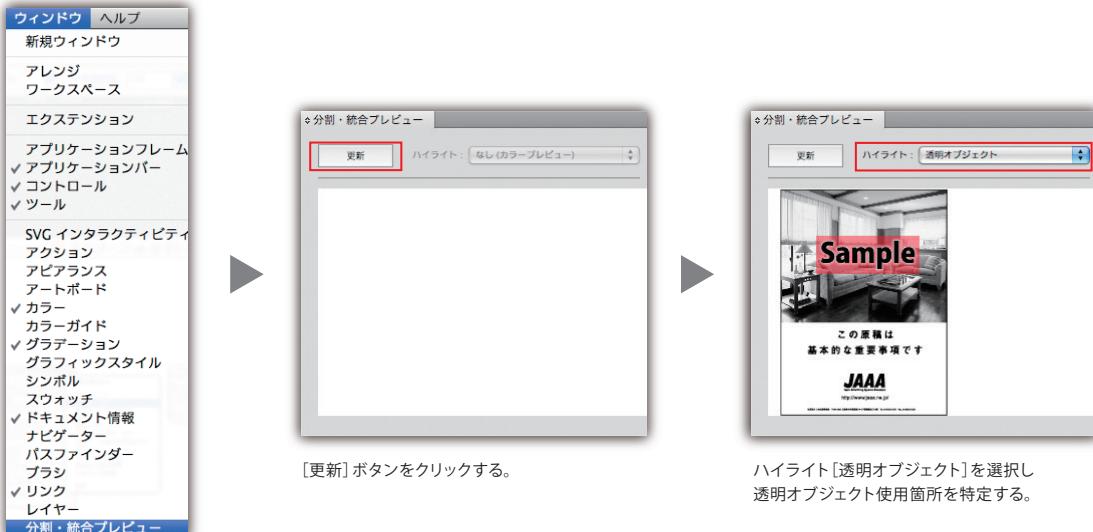
# 制作ルール モノクロ原稿の確認・グレースケール化



全ての効果・フィルターメニュー・透明オブジェクトはCMYKでイメージが作成される為、モノクロ(グレースケール)PDF原稿作成時は透明オブジェクトをラスタライズ(透明の分割・統合)し、グレースケールモードに変換する必要があります。以降1~5の手順で処理を行ってください。

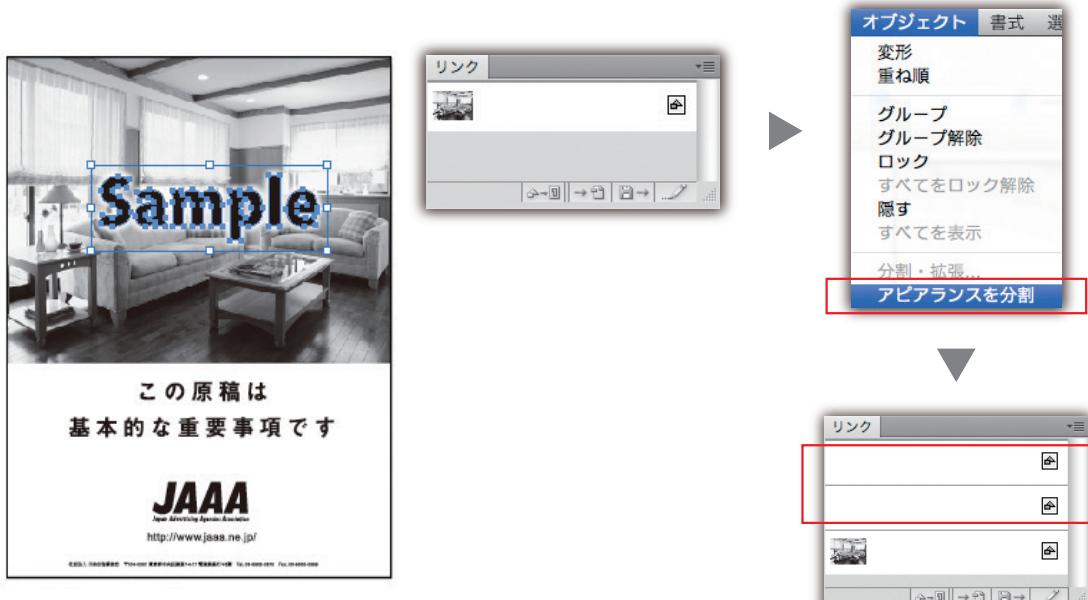
## 1.透明オブジェクトが使用されている場所を特定する。

[ウィンドウ]メニューの[分割・統合プレビュー]を選択して[分割・統合プレビュー]パレットを表示する。  
[更新]ボタンをクリックし、ハイライト[透明オブジェクト]を選択する。  
※[透明オブジェクト]がグレーアウトされて選択できない場合はドキュメント上に透明機能が使用されていないので、以降の処理は不要。



## 2.アピアランスの分割(透明部分の画像化)

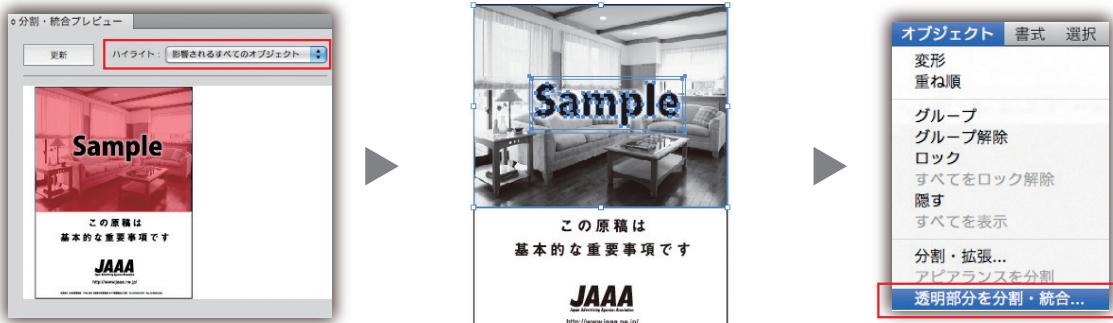
[分割・統合プレビュー]パレットで確認した透明オブジェクトを選択し、[オブジェクト]メニューの[アピアランスを分割]を選択する。  
※[アピアランスを分割]がグレーアウトしている場合や、画像に透明効果を使用している場合の処理は不要。



# 制作ルール モノクロ原稿の確認・グレースケール化

## 3.透明部分の分割・統合

[分割・統合プレビュー]パレットのハイライト[影響されるすべてのオブジェクト]で透明オブジェクトが影響するオブジェクトを確認する。影響されるすべてのオブジェクトを選択し、[オブジェクト]メニューの[透明部分を分割・統合]を選択し[高解像度]を選択する。



透明が影響されるすべてのオブジェクトを確認する。

透明が影響されるすべてのオブジェクトを選択する。

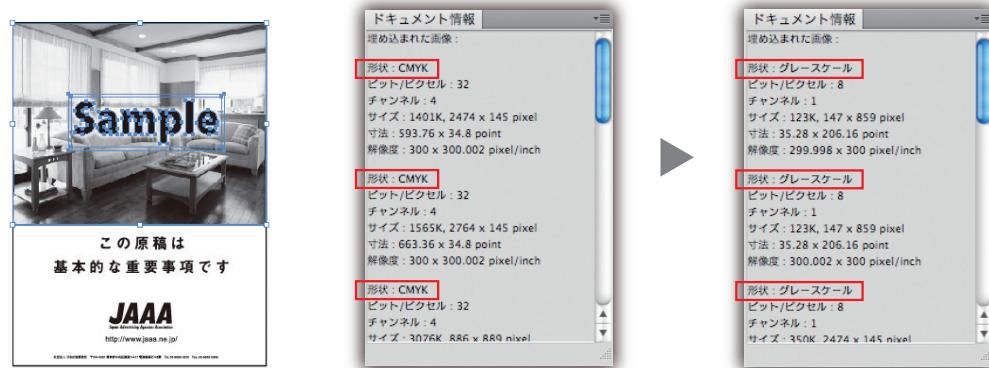


プリセットから[高解像度]を選択してOKをクリックする。

透明オブジェクトが分割され、ドキュメント内の透明属性がなくなった。

## 4.分割した画像のグレースケール化

[透明部分を分割・統合]で作成した画像はCMYKモードに変換されてしまう為、[編集]メニューの[カラーを編集]から[グレースケールに変換]でグレースケール化を行う。※IllustratorCS2は[ファイル]メニュー→[カラー]→[グレースケールに変換]を選択する。



分割・統合により画像が CMYKモードに。

該当部分を選択して、 [グレースケールに変換]を選択する。

## 5.最終確認

P10の「原稿内オブジェクトの確認方法」を参照して原稿内のオブジェクト・画像がグレースケール・モノクロ2階調のみで作成されているか最終確認を行なってからPDFを書き出す。

# PDFの作成

## PDFの書き出し



規定の[PDF設定]を利用して、Illustrator・InDesignから最終送稿PDFデータを保存する。

最終送稿PDFデータのフォーマットはPDF形式、作業中のデータ保存はネイティブ形式を利用する。

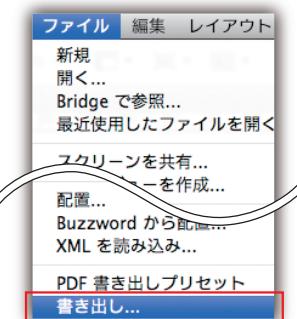
Acrobat Distillerやその他のアプリケーションからは送稿用PDFデータを作成しない。

Illustrator



1. [ファイル]メニューから[複製を保存]を選択する。

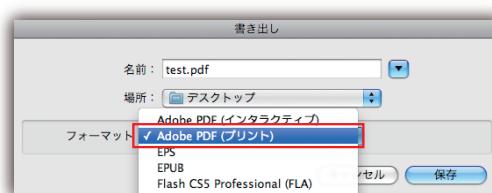
InDesign



1. [ファイル]メニューから[書き出し]を選択する。



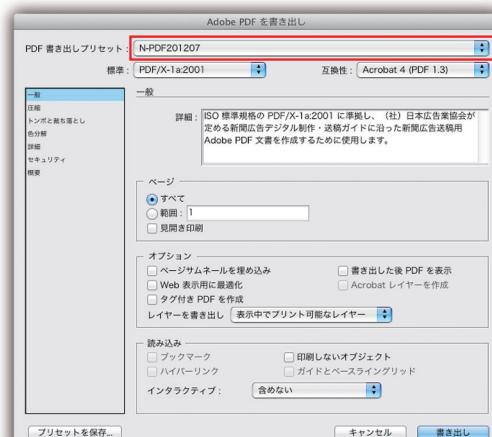
2. [フォーマット]で[Adobe PDF (pdf)]を選択し、  
ファイル名と保存場所を指定して[保存]をクリックする。



2. [フォーマット]で[Adobe PDF (プリント)]を選択し、  
ファイル名と保存場所を指定して[保存]をクリックする。



3. [Adobe PDFを保存]パネルで規定の[PDF設定]を選択して  
[PDFを保存]をクリックする。



3. [Adobe PDFを書き出し]パネルで規定の[PDF設定]を選択して  
[書き出し]をクリックする。

PDF完成

PDF完成

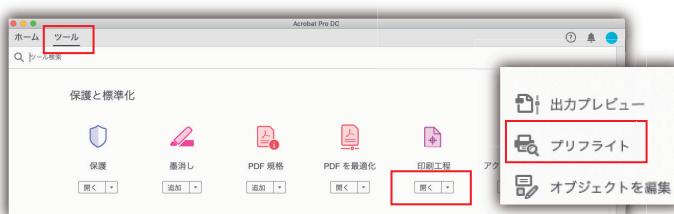
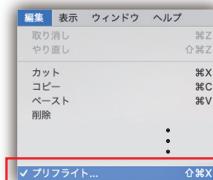
# PDFのプリフライト

## プリフライトの実施 N-PDF2012準拠PDFプリフライト

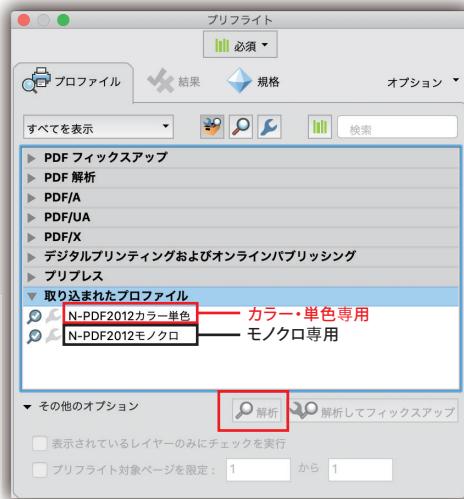


原稿の種類に応じた規定のカラー・単色原稿専用、モノクロ原稿専用プリフライトプロファイルを用いて、最終送稿PDFデータの検査を行う。

1. [編集] メニューから [プリフライト] を選択する。  
(Acrobat9は[アドバンスト] メニュー)



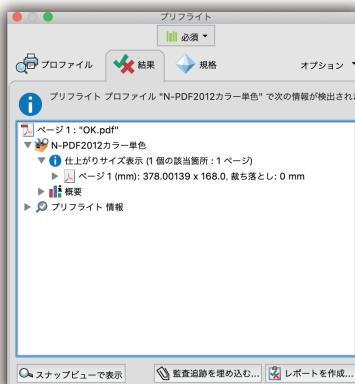
Acrobat DCでは[ツール] パネルの[印刷工程]を開き[プリフライト]を選択でも可。



2. 原稿の種類に応じたプリフライトプロファイルを選択して [解析] をクリックする。

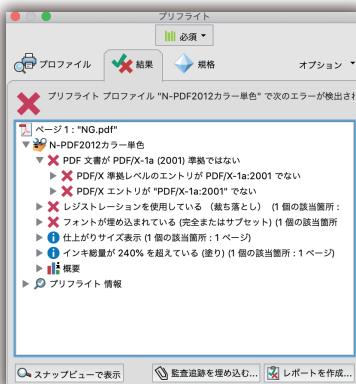


### ■確認が必要なレポート:確認後、送稿可



PDFの仕上がりサイズは「情報」項目として必ず表示されます。  
サイズ以外の「情報」項目を確認後問題があればレイアウトデータに  
戻り修正。

### ■エラーが検出されたレポート:送稿不可



レイアウトデータに戻り不備箇所を修正する。



Adobe Acrobat Proで動作する規定のプリフライトチェックでは、[K100%オブジェクトのオーバープリント設定]と[インキ総量(TAC値)]のチェック(※)は行いません。最終PDFから出力したプレーフで確認するとともに、[出力プレビュー]を活用して次ページの確認が必要です。  
※[オーバープリント処理後のインキ総量(TAC値)]、[グラデーションのインキ総量(TAC値)]、[画像のインキ総量(TAC値)]

## 参考

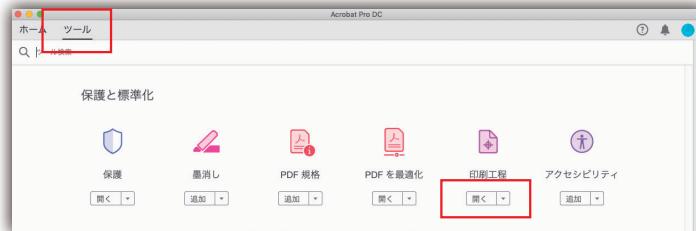
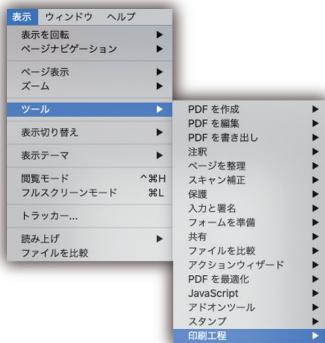
プリフライトで、パターンオブジェクトが検出された場合、[4Cまたは特色以外のカラーを使用]のエラーが表示されます。これは、パターンの検出に合わせて表示されています。そのため、パターンオブジェクトに分割・拡張処理を行う事でエラーを回避できます。



# PDFのプリフライト 目視で確認する項目

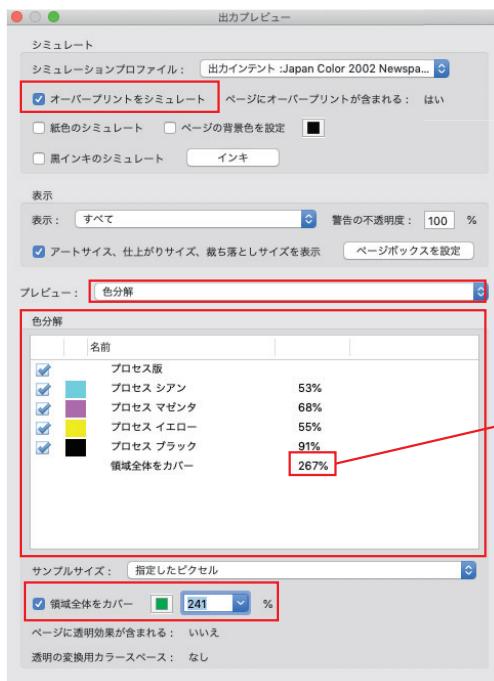
## オーバープリント・総インキ量(TAC値)の確認

[プリフライト]で確認できない項目は、[出力プレビュー]を活用して、作成したPDFが意図したノセヌキ結果となっていることや、総インキ量(TAC値)の検証を行う。



[表示]メニューの[ツール]から[印刷工程]にある  
[出力プレビュー]を選択する。  
(Acrobat 9は、[アドバンスト]メニューから)

Acrobat DCでは設定によりメニュー画面に表示されない場合があります。  
[ツール]パネルの[印刷工程]を開き [出力プレビュー]を選択する。



### 総インキ量(TAC値)の確認方法

- 「領域全体をカバー」を選択して、241%を入力すると、総インキ量(TAC値)が240%を超える部分が緑色で警告表示される。この状態で、警告表示された部分にカーソルを移動すると[色分解]のウィンドウにインキ量が表示される。

### オーバープリントの確認方法

- 「オーバープリントをシミュレート」を選択し、画面上でオーバープリントをシミュレーションする。
- 「[色分解]」パネルで各版を個別に確認する。
- 「[ブレビューカラーワーニング]」パネルで「[オーバープリントを表示]」を選択する。



## 日本新聞協会のサイト(新聞広告データアーカイブ)について .....

日本新聞協会では新聞広告総合サイト「新聞広告データアーカイブ」を随時更新しています。

サイト上には、各新聞社の入稿・制作マニュアルを定期的に集約し、アップしています。各新聞社のマニュアルにおける不明な点、最新の情報につきましては、各新聞社に直接問い合わせてください。



**<http://www.pressnet.or.jp/adarc/edi/edisearch.html>**



<http://www.jaaa.ne.jp/>

## 新聞広告デジタル制作ガイド N-PDF ver.1.2 (2019)

発行日：2012年2月24日 改訂：2019年10月1日 [非売品]

編 者：(一社)日本広告業協会

発行者：島田 誠一

発 行：(一社)日本広告業協会

〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル8階 Tel. 03-5568-0876 Fax. 03-5568-0889

---

本ガイドラインに対するご意見・お問い合わせは、日本広告業協会・事務局 (info@jaaa.ne.jp) まで電子メールにてお願いします。  
いただいた内容に対しては原則として回答はいたしませんが、改訂時の参考とさせていただきます。

---

■本ガイドの一部または全部を(一社)日本広告業協会の事前承諾なしに改編することを禁じます。

■本ガイドに記載された内容は推奨情報の提供を目的としており、予告なしに変更されることがあります。

■本ガイドに記載された全てのブランド名または製品名は個々の所有者の商標もしくは登録商標です。

Apple、Macintosh、MacOSはApple Inc.の商標で、米国および各国で登録されています。

Adobe Illustrator、Photoshop、InDesign、AcrobatおよびPostScriptはAdobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。